

## 霧島山（新燃岳）の噴火に関する対応（第11報）

平成23年2月28日

17:00 現在  
国土地理院

これまでの国土地理院の対応は以下のとおりである。

### 1. 噴火の状況

霧島山(新燃岳)では、1月26日の7時31分にごく小規模な噴火が発生し、その後も噴火が継続していたが、今後、更に活動が活発になる可能性があることから、26日18時に火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)が発表され、火口から居住地域近くまでの広い範囲の火口周辺で警戒が必要となった。

1月31日には28日に火口内に確認された直径数10mの溶岩ドームが、31日には直径500m程度の大きさに成長し、今後、爆発的噴火が発生した場合、溶岩ドームが破壊され、火口から火砕流が流下する可能性があり、31日1時35分に火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制、切り替え)が発表され、火口から概ね3kmの範囲で火砕流に警戒が必要となった。

2月1日の7時54分に発生した爆発的噴火により、大きな噴石が新燃岳火口から3kmを超えて飛散していることが確認されたため、1日11時20分に火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制、切り替え)が発表され、火口から概ね4kmまでの範囲で大きな噴石に警戒が必要となった。

その後、爆発的噴火が2月2日の5時25分、10時47分、15時53分、2月3日の8時9分に発生した。11日の11時36分には2月3日以降8日ぶりに爆発的噴火があり、14日の5時7分、18日の18時16分にも爆発的噴火が発生した。上空からの調査では火口内に蓄積された溶岩は直径600m程度で2月2日以降大きな変化はないが、25日上空からの調査では、火山灰や噴石が堆積しており、溶岩と火口壁との境界は不明瞭となっており、溶岩の表面には南北に走る亀裂が認められた。

(参考:霧島山(新燃岳)火山活動解説資料・気象庁)

### 2. 体制等

1月26日(水) 18時00分 注意体制

1月31日(月) 16時00分 警戒体制

### 3. 国土地理院の対応

○1月27日(木)

・地理情報の提供

10:00～ 霧島山(新燃岳)および周辺地域の地形図を電子データにて関係機関に提供開始(提供先:国土交通省、九州地方整備局、内閣府(防災)、官邸、

指定行政機関、宮崎県、鹿児島県、宮崎県小林市、えびの市、都城市、高原町、鹿児島県霧島市、曾於市、湧水町)

・地殻変動情報の提供

20:00～ 霧島山(新燃岳)周辺に設置している電子基準点(3点)の観測データ(3時間ごとの迅速解)を火山噴火予知連絡会、国土交通省、九州地方整備局に配信開始

○1月28日(金)

・14:00 「霧島山の地殻変動を確認」に関する記者発表を実施

・16:30 霧島山の噴火に関する関係省庁連絡会議(内閣府防災担当)に企画部長が出席

・19:30 国土地理院ホームページに「霧島山(新燃岳)の噴火に関する対応」の情報提供を開始

<http://www.gsi.go.jp/BOUSAI/h23kirishima-index.html>

・火山噴火予知連絡会に霧島山(新燃岳)総合観測班が設置(国土地理院幹事:研究センター・今給黎総括研究官)

○1月29日(土)

・航空機(くにかぜⅢ)は沖縄から北九州空港へ移動予定であったが、天候の関係で高知空港へ移動

○1月30日(日)

・航空機(くにかぜⅢ)は高知空港から調布飛行場へ移動

○1月31日(月)

・GPS リモート火山観測装置(REGMOS)の設置のため、機動観測課2名が現地へ出発、GPS リモート火山観測装置(REGMOS)の運搬開始

・16:00 「霧島山の地殻変動(第2報)」に関する記者発表を実施

・16:10 航空機(くにかぜⅢ)による緊急撮影等のため、調布飛行場を出発(北九州空港着)

・19:30 国土地理院ホームページに「霧島山周辺のGPS連続観測結果」の情報提供を開始

<http://www.gsi.go.jp/chibankansi/chikakukansi60007.html>

○2月1日(火)

・GPS リモート火山観測装置(REGMOS)の設置のため、機動観測課1名が現地へ出発

・10:30～ GPS リモート火山観測装置(REGMOS)の設置箇所選定開始、えびの市立加久藤小学校尾八重野分校に設置を決定

・10:30～ 航空機(くにかぜⅢ)は北九州空港を離陸し、霧島山(新燃岳)の SAR 観測を開始、斜め写真を撮影

・14:00 第1回災害対策会議を開催

・14:00 「霧島山(新燃岳)火山活動に伴う地殻変動監視強化 -GPS 火山変動リモート観測装置(REGMOS)をえびの市に設置-」の記者発表を実施

- ・16:00 大雪及び新燃岳噴火に関する関係省庁連絡会議(内閣府防災担当)に  
関東地方測量部長が出席
- ・18:00 航空機(くにかぜⅢ)で撮影した斜め写真を関係機関に提供
- ・21:00 「新燃岳の溶岩ドームが直径約 600mに成長 ～4回目の爆発的噴火後  
の火口の状況をくにかぜⅢから撮影～」の記者発表を実施

○2月2日(水)

- ・10:30～ GPS リモート火山観測装置(REGMOS)を設置、据付を行い、観測を開始
- ・14:00 航空機 SAR の画像と初期解析結果を関係機関へ提供
- ・14:00 「霧島山(新燃岳)の噴火に関する対応(2月2日)」の記者発表を実施

○2月3日(木)

- ・11:00 火山噴火予知連絡会拡大幹事会に今給黎地理地殻活動総括研究官が  
出席
- ・14:00 「霧島山の地殻変動(第4報)」に関する記者発表を実施
- ・14:15 GPS リモート火山観測装置(REGMOS)の設置に伴う追加データ(3時間  
ごとの迅速解)を配信開始

○2月4日(金)

- ・9:00 第2回災害対策会議を開催
- ・14:00 「霧島山(新燃岳)の地殻変動(第5報)」に関する記者発表を実施

○2月7日(月)

- ・10:45～ 航空機(くにかぜⅢ)は北九州空港を離陸し、霧島山(新燃岳)の SAR  
観測(2回目)を開始
- ・14:00～ 霧島山(新燃岳)周辺に設置している電子基準点(3点)および GPS リ  
モート火山観測装置(REGMOS)の観測データ(3時間ごとの迅速解)を福岡管区  
火山センター、鹿児島地方气象台に配信開始
- ・14:00 「霧島山(新燃岳)の地殻変動(第6報)」に関する記者発表を実施

○2月8日(火)

- ・11:00 第3回災害対策会議を開催
- ・16:00 大雪等及び新燃岳噴火に関する関係省庁連絡会議(内閣府防災担当)  
に関東地方測量部次長が出席

○2月9日(水)

- ・11:40～ 航空機(くにかぜⅢ)は北九州空港を離陸し、霧島山(新燃岳)の斜め  
写真撮影等を実施
- ・14:00 「霧島山(新燃岳)の地殻変動(第7報)」に関する記者発表を実施
- ・デジタル標高地形図「霧島山」を宮崎県、鹿児島県、都城市、小林市、えびの市、  
高原町、霧島市に発送

○2月10日(木)

- ・14:00 「霧島山(新燃岳)の地殻変動(第8報)」に関する記者発表を実施
- ・19:00 航空機(くにかぜⅢ)で撮影した斜め写真を関係機関に提供

○2月 11 日(金)

- ・1:25000 デジタル標高地形図「霧島山とその周辺(5m)」を宮崎県、鹿児島県、都城市、高原町、霧島市、政府支援チーム(宮崎県庁内)、宮崎河川国道事務所、大淀川砂防出張所に発送

○2月 14 日(月)

- ・1:25000 デジタル標高地形図「霧島山とその周辺(5m)」を官邸、内閣府、国土交通省、九州地方整備局に提供

○2月 15 日(火)

- ・13:00 火山噴火予知連絡会定例会に今給黎地理地殻活動総括研究官が出席
- ・15:00 国土地理院ホームページにおいて電子国土情報集約マップによる情報提供を開始

<http://zgate.gsi.go.jp/SaigaiShuyaku/20110126/index.htm>

○2月 16 日(水)

- ・10:30 第4回災害対策会議を開催

○2月 21 日(月)

- ・霧島山周辺の電子基準点および2月2日に設置した GPS リモート火山観測装置(REGMOS)の火山灰による影響調査を 23 日まで実施し、清掃等を実施

○2月 22 日(火)

- ・12:00 「「だいち」のデータから霧島山(新燃岳)の地殻変動を面的に把握」に関する記者発表を実施

○2月 25 日(金)

- ・16:00 霧島山(新燃岳)噴火に関する関係省庁連絡会議(内閣府防災担当)に防災企画官が出席

#### 4. 政府・国土交通省等の体制

政府 官邸情報連絡室設置(1月 31 日 1:40)

関係閣僚会議(2月 1 日 8:00)

内閣府 情報連絡室を設置(1月 26 日 18:00)

情報対策室へ改組(1月 31 日 1:40)

政府支援チーム員として、宮崎県に職員5名を派遣(2月 7 日～)

国土交通省 国土交通本省注意体制(1月 26 日 18:00)

政府支援チーム員として、宮崎県に職員1名を派遣(2月 7 日～)

九州地方整備局 注意体制(1月 26 日 18:00)

気象庁 警戒体制(1月 26 日 18:00)

以 上